

地域の医療連携の中核を担う

## りんくう総合医療センター

問合先 地域医療連携室 (☎469-3111 Fax469-7929)

### 神経内科

認知症ケアセンター長兼部長

宗田高穂

神経内科では脳梗塞、パーキンソン病、てんかんなど、脳や神経の疾患の診療を行います。手足のふるえやしびれ、歩行障害、構音障害、頭痛、めまいなどの症状について必要な検査・治療を行っています。



当院では緊急の頭部CT、MRIが可能であり、脳卒中についてはその日のうちに診断できます。必要に応じて脳波、筋電図検査、超音波検査、髄液検査などを行います。

内服や点滴で治療可能な場合は、神経内科で治療します。手術などが必要と判断されれば、脳神経外科など外科系の科に紹介します。

神経内科は歴史が浅く、馴染みのない人もおられるかと思われませんが、高齢化とともに必要とされるものが多くなってくる科です。これらの補助診断法も参考にすれば、より確かな薬物治療ができるかと期待されます。MRI画像で評価する試みもできるようになります。

近隣のクリニックや病院の先生方と連携関係を密にしながら、泉州地域の患者さんに質の高い医療サービスを提供していきたいと考えています。どうぞよろしくお願ひします。

### 麻酔科

診療局長補佐兼中央手術室長兼麻酔科主任部長

小林俊司

麻酔科は手術麻酔、ペインクリニック（疼痛外来）を主な業務としているほか、集中治療室（ICU）や院内の緩和ケアチームなどに對し、必要に応じた協力を行っています。10人の日本麻酔科学会専門医もしくは指導医を中心に、総勢14人のスタッフ（常勤医10人、非常勤医1人、後期研修医3人）で構成され、2017年度の年間総麻酔件数は2,976件でした。



私たちの考える麻酔管理とは、手術中の麻酔を安全に行うだけでなく、術前・術後まで含めた、いわゆる「周術期」において、一貫して質の高い医療を提供することです。患者さんへの丁寧な術前診察や説明、詳細な麻酔計画から始まり、安全第一で質の高い麻酔管理、術後の適切な鎮痛とフォローまで、クオリティの高い麻酔管理をお約束します。

ペインクリニック（疼痛外来）は、毎週月・水・木・金曜日の午前中、日本ペインクリニック学会専門医3人を中心に行っています。肩凝り、腰痛、三叉神経痛、帯状疱疹（ヘルペス）痛、脳卒中後痛、遷延する術後痛、四肢血行障害性疼痛（レイノー症候群、ASOなど）、がん性痛などの慢性痛に対して治療にあたっています。詳しくは、りんくう総合医療センターホームページ内「麻酔科」の項目をご覧ください。

